

校長 だ よ り

平成22年10月22日(金)

沖縄県立読谷高等学校

校長 與那覇 健勇

～ 授 業 観 察 を 通 し て ～

「教師は授業で勝負する」語り継がれた言葉です。

9月14日から10月19日のひと月以上に亘り先生方の授業を見せてもらいました。42名の先生の個性的な熱のこもったいい授業でした。

人に自分の授業を見てもらうというのは、誰でも嫌なものです。中にはそうでない方もいるにはいると思うのですが、私も嫌でしたね。ですが年に一度くらいは見てもらったほうがいいのかもかもしれません。何しろ緊張感が違います。いい授業とそうでない授業との違いは、緊張感の有無です。ちょうど本物の絵と偽物の絵には漂う緊張感が違うと専門家が言っているようなものだと思います。一時間の授業は山あり谷ありで必ずしも平坦ではありません。一時間ずっと緊張しっぱなしでもゆるみっぱなしでもいけません。ですが、ここぞというとき、はずしてはいけない場面、教えた場面でのピーンと張り詰めた緊張感のある授業はいい授業であると思います。私の感想は授業観察ノートに記してありますが、その中から一部を紹介してみます。

- ・一時間の授業ですべてを見せるいい授業だった。
- ・授業の最初に一時間のねらい、目指すところを示すこと。
- ・大切なところは逆に声色(小声)で注意をひきヤマを作ろう。
- ・目配りの角度が素晴らしく信頼関係ができていてよい。
- ・教師の自信が生徒によく反映されている。リズム、テンポが良い。
- ・生徒の顔が上がっていて授業のスタイルが作られていて良い。
- ・慣れ合いになりすぎているので緊張感のある場面を作ろう。
- ・私語なく集中している。生徒の聞く姿勢をよく指導している。
- ・現代版寺子屋的授業で格調が高い。
- ・パワーあふれる作りこんだオリジナルの授業だ。
- ・生徒を良く動かし、生徒が協力して、授業をいいものになっている。
- ・授業の起承転結があり、理解させようとする意気込みに満ちている。

廊下を素通りして見るだけではわからない先生方の苦勞と命を賭けた授業展開を見ることができ、「ダイヤモンドの原石はダイヤモンドでしか磨けないこと」。読高の先生方の生産的ないい授業を見ていい気分です。